



増沢末夫騎手(美浦・鈴木康弘厩舎) 54歳。は10月20日、福島競馬第2レースでビヨルリンクに騎乗して勝ち、通算2000勝を達成した。これは、中央競馬史上初の2000勝到達となった。
増沢騎手は、昭和12年北海道生まれ。昭和32年騎手免許取得。昭和32年7月14日にワンスタ1で初勝利をあげてから、足かけ35年目になる。

増沢騎手について語られる時、いつも引き合いに出されるのがハ

増沢末夫騎手 通算2000勝達成

——調教師試験受験を表明



2000勝の軌跡

年	1着	年	1着	年	1着
S32	3	S44	57	S56	95
S33	32	S45	46	S57	104
S34	38	S46	48	S58	89
S35	14	S47	44	S59	88
S36	29	S48	36	S60	82
S37	25	S49	38	S61	106
S38	10	S50	48	S62	99
S39	37	S51	56	S63	91
S40	36	S52	74	H元	86
S41	60	S53	44	H 2	100
S42	48	S54	46	H 3	74
S43	53	S55	64		

計 2000



イセイコーだが、自身も思い出の馬を問われるためめらうことなくハイセイコーの名をあげている。
1000勝に到達したのは昭和56年、43歳の時だったが、それからの円熟ぶりは、鉄人の異名をつけられるほどのものだった。
50歳を越えてからも勝ち星は増え、昨年は100勝、ことしもすでに77勝(11月3日現在)をあげている。衰えを知らない成績で、一体、増沢騎手は何歳まで騎乗するのか、が話題になっていた。
2000勝達成から10日後の10月30日、美浦トレセンで記者会見が開かれ、「ことし行われる調教師試験を受験する」と、事実上、平成4年度2月いっぱいでの騎手引退を表明した。

0勝を達成して、みなさんに惜しまれながら辞めるのもいいのではないかと思っただ。今回の調教師試験の受験については、申請書の締切時間ぎりぎりまで家族と相談していた。
家族から、2000勝もあげたことだし、これがいよいよ潮時ではないか、という要請もあった。
1000勝騎手には、調教師試験の第一次試験免除というJRAの内規がある。新たな出発への道は開けている。
現在、通算勝利数では岡部幸雄騎手が1631勝(11月4日現在)であとを追っている。いずれ2000勝という数字に到達する騎手も出現するだろうが、大きな怪我もなく、54歳まで現役を続けた増沢末夫は語り継がれていく。

第104回天皇賞・秋 メジロマックイーン 1位入線も、2コーナー 斜行で18着降着

10月27日、第104回天皇賞・秋で1位入線したメジロマックイーンは、2コーナーで内側に斜行し、フレジデントシチー、メイショウビトリア、ムービースターの進路を妨害したため18着に降着。武豊騎手は3週間(実効6日間)の騎乗停止となった。
G1競走で1位入線した馬が降着になったのは史上初めて。
このため、2位入線のフレクラスニーが繰り上がり、第104回天皇賞馬に輝いた。

